

特別講演会

演題：政冷経熱～日中関係におけるナショナリズムの衝撃～

講師：フィル・ディーンズ氏

ロンドン大学東洋アフリカ学院現代中国研究所長兼上級講師
テンブル大学日本校客員教授

プロフィール

ニューキャッスル大学(英国)にて Ph.D. 取得。1991 - 93 年文部省外国人研究員(東京大学)、および 2005 - 06 年日本学術振興会外国人研究員(上智大学)。
主な研究分野は、日中、日台関係を中心とする東北アジア国際関係。近年は、日中関係を取りまく両国の愛国心に関する研究プロジェクトに従事するほか、靖国神社をめぐる論争についてまとめた専門書の編纂にもあたっている。

主な著書

Virtual Diplomacy: Japan-Taiwan Relations since 1972 (forthcoming)
「東アジアのナショナリズムをめぐる靖国問題」(早川美也子・訳) 中野晃一十上智大学 21 世紀 COE プログラム編『ヤスクニとむきあう』(めこん、2006)。
"Isolation and Identity: Taiwanese Stamps as Vehicles for Regime Legitimation" *East Asia: An International Quarterly*.
"Nationalism and National Self-Assertion in the People's Republic of China: State Patriotism versus Popular Nationalism?" *Copenhagen Journal of Asian Studies*.
その他、*The Journal of Strategic Studies*、*Security Dialogue*、*East Asia: an international quarterly*、*China Aktuell*、および *China Perspectives and other journals* などへ多数寄稿。

要旨

本講演は、1989 年以來、中国でくすぶる反日感情に着目すると同時に、日本での反中感情との比較対照を試みるものである。また、国際関係における自由主義理論が想定するところの、成長の一途をたどる日中間の経済交流によって政治的および社会的関係改善が誘発される状況が、なぜ起こらないのかという要因についても討究する。交流の機会が増すにつれ、とりわけ根深い歴史認識の相違を抱える場合にその対応を誤れば、関係は良好になるどころかむしろ悪化するものである。そこで、自国の愛国主義問題の対処をめぐる北京と東京の指導者に落ち度があったこと、またむしろ同問題を彼らが内政の場で利己的に利用すべく画策したことについても考察する。胡錦涛政権の中国が、この構図を脱しようと模索してきた一方で、小泉首相はその責任の一端を日本に課すことを容認しなかった。そこで私は、靖国神社参拝により生み出された望外な失望についても言及したい。